

## 2価の新型コロナワクチンは1価より死亡率を下げる

新型コロナワクチンには、デルタ株対応の1価と、オミクロン株にも対応した2価のワクチンがあります。米疾病対策センター（CDC）の週報であるMMWR (Morbidity and Mortality Weekly Report) 2023年2月10日号に掲載された論文によると、2価ワクチンの追加接種が従来型の1価ワクチンよりもBA.4/BA.5による死亡リスクを減らしたと報告しました。以下、その概要についてご紹介します。

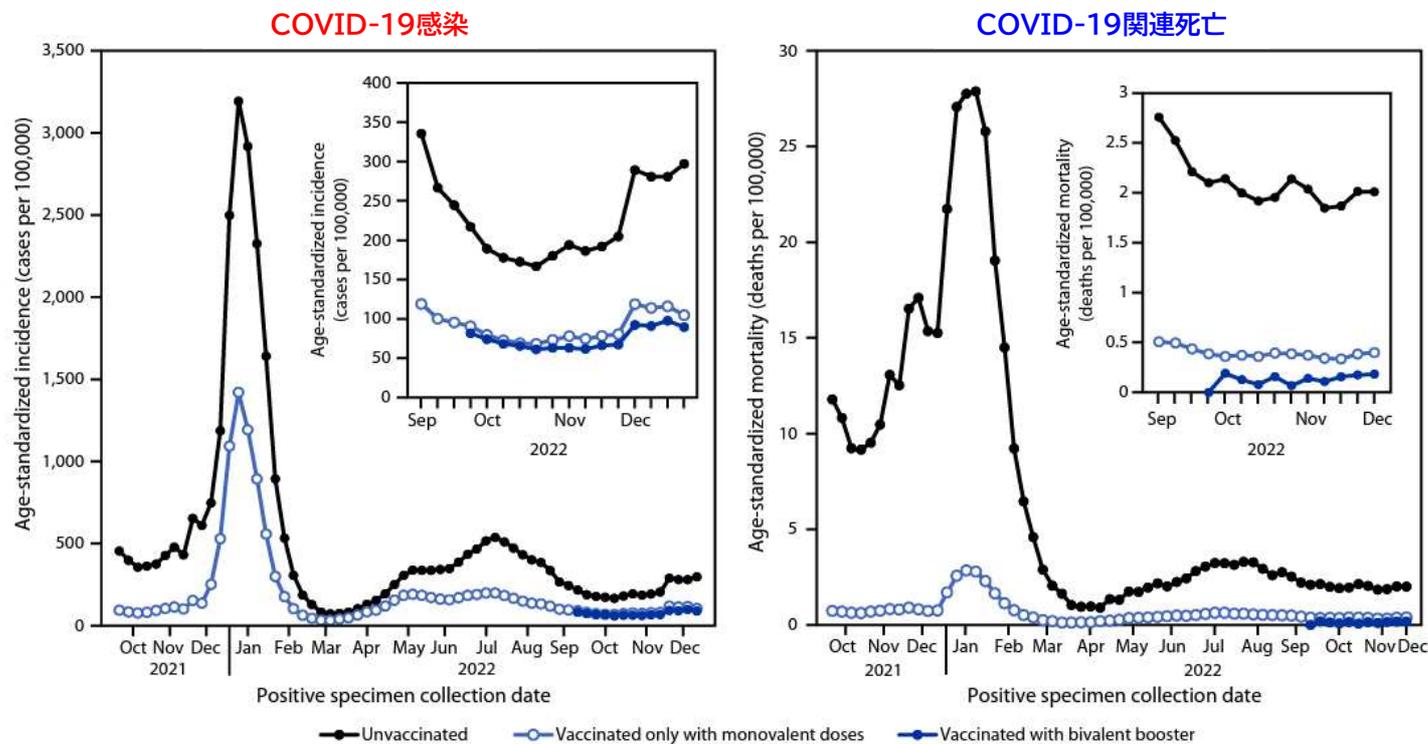
[https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/72/wr/mm7206a3.htm?\\_fsi=VyeUmFii](https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/72/wr/mm7206a3.htm?_fsi=VyeUmFii)

米国では、2022年9月1日に、新型コロナワクチンの接種歴がある12歳以上の人に2価ワクチンの追加接種を推奨しました。レポートでは、それまで接種されていた1価ワクチンと2価ワクチンの効果を評価するために、各期間で優勢であった変異株に基づいて、デルタ株(2021年10月3日～12月18日)、オミクロン株BA.1(2021年12月19日～2022年3月19日)、BA.2(3月20日～6月25日)、BA.4/BA.5前期(6月26日～9月17日)、BA.4/BA.5後期(9月18日～12月24日)のそれぞれについて、12歳以上のワクチン非接種者と接種者の感染率と死亡率を推定したことが報告されました。

その結果、ワクチンを接種していない人のCOVID-19の死亡率と感染率は、2価のワクチンを接種した人よりも高い結果となりました(死亡率の相対リスク:14.1、感染の相対リスク:2.8)。高齢者では、ワクチン未接種者の死亡率は、2価ブースター接種を受けた人よりも有意に高い結果となりました(65～79歳の相対リスク:23.7、80歳以上の相対リスク:10.3)。

BA.4/BA.5後期における2価ワクチンの追加接種の2週間後から2ヶ月後の人では、死亡率の相対リスクは15.2で、ワクチンの有効性は93%と推定されたとのこと。なお、今回の分析には、自然感染と、接種記録にはないワクチン追加接種の影響は考慮されていません。

FIGURE 1. Age-standardized weekly COVID-19 incidence\* and COVID-19-associated mortality rates,† by vaccination status and receipt of a bivalent booster dose<sup>‡</sup> — 24 U.S. jurisdictions,¶ October 2021–December 2022\*\*



ワクチン非接種者    1価ワクチンのみ接種者    2価ワクチンのブースター接種者

医薬品に関する有効性や安全性の情報については下記薬局の薬剤師までお気軽にお問い合わせください。

### 一般社団法人 大阪ファルマプラン

あおぞら薬局、そよかせ薬局、あおば薬局、すみれ薬局、すずらん薬局、なぎさ薬局、もえぎ薬局、あおぞら薬局淡路店、あおぞら薬局三国店、かがや薬局、なつめ薬局、こつま薬局

全薬局が健康サポート薬局・地域連携薬局

